

第16回学会大会報告
特別研究発表

「沖縄の生活とレクリエーション」
～伝統芸能とマリンスポーツ～

演者 金城光子(琉球大学)
報告者 芳賀健治(編集委員会幹事)

今回の学会大会は開催地が沖縄ということもあり、特に沖縄の人々の暮らしとレクリエーションがどのようにむすびついているのかといった視点から琉球大学の金城光子教授に特別研究発表という形式で講演をしていただいた。

金城氏は、大学では舞踊教育学の御担当であり、沖縄の伝統舞踊研究の第一人者である。また、沖縄の踊りの教材化を推進し、人々の日常の暮らしの中に沖縄の伝統舞踊を末長く残していこうという努力を精力的にされている方でもある。

さて、今回の発表では、特に伝統芸能についてビデオによる映像を用いて数多く紹介して戴いたが、都市化、高度情報化社会といわれる現代社会を研究対象としている我々には大いに関心をひきつけられる話題ばかりであった。何よりも、我々内地の人間の大部分にとって踊りは見るものであって参加するものではないという現実があるが、沖縄の生活では踊りは見るものではなく参加するものであって、踊りが持つ本来の社会的意味合いが色濃く残っていたことであろう。その社会的意味合いの中ではレクリエーション的意味合いも重要なファクターとして機能している。内地においては既に神事としての踊りは見るものとして我々の日

常生活からはやや離れたところに存在しているように思われる。これとは全く対症的に、沖縄の踊りには宗教的意味合いとレクリエーション的意味合いとが混然一体となった社会的機能を持ち、しかも人々の暮らしに極めて密接に溶けこんでいることには参加者一同驚きを覚える程であったのではないかと思われた。また、各地域社会の生活文化と深く関わりあった伝統芸能のあり方には「地域」「コミュニティ」に対する新たな視点を参加者にもたらしてくれたのではないだろうか。

さて、沖縄では、伝統芸能の継承者が高齢者集団ばかりでなく、成人、青年、子供集団にまで及んでいることが特徴であるとのことであり、「中古車屋の数ほど踊りの稽古場が多い」とのことである。また、金城氏は「若者が伝統芸能の価値を見出している」ことを強調された。

沖縄の人々にとって伝統芸能やハリーなどの伝統的な年中行事は、自分達の生活の原点であり、そこに自分達の生き方を教えてくれる何かがあるということ強く認識しているということが伺われた。

沖縄では「世代」のことを「ユウ」とよぶが、トウ(唐・中国)のユウからサツマ(薩摩)のユウ、サツマのユウからウチナァ(我々の)ユウ、ウチナァユウか

らアメリカユウ、アメリカユウからヤマト（日本）のユウといわれるように、この一世紀の間、沖縄は他の文化圏から干渉を受け続けた激動の時代であった。干渉を受けたからこそ自分達の日常生活と密接に関わる文化の重要性を我々以上に強く認識していたといえるであろう。また、単に自分達の文化を守るだけでなく、それぞれの新しい文化を取り入れながら古くからの文化をいかしていくというしたたかさをもそこに感じることができる。

金城氏がビデオで紹介された伝統芸能の内容は次のようなものであった。

- 1 神遊びの神事 大宜味村塩屋、国頭村比地のクッナー・・・豊作祈願のハーリー神事の前の狩りの踊り
- 2 名護市安和のウスデークー・・・（輪踊り）
久高島のイザイホー
- 4 八重山のアンガマー・・・（盆行事の一つ、各家々をまわってその年の家の幸せを祈願する）
- 5 宮古のタイチャー（雨ごいの踊り）
- 6 那覇市辻町のじゅり馬（中国風琉球風が入り混じった行列）
- 7 糸満のハリー（長崎のペーロン競争に類したもの）
- 8 老人クラブの「芸能大会」・汗水節の踊り
金城氏は歌い踊り、楽しむことが、長寿日本一といわれる沖縄の人々の長寿につながっているのではないかと示唆された。
- 9 玉城村前川のアヤグ（相撲を芸能化したもの）
- 10 宜野座村のチョンダラー（京太郎）そもそもは大道芸人の芸をこの村の人々が受け継いだもの。
- 11 中城村のターファークー（打花鼓）
中国風の大名行列。中国の伝統芸能を若い人達が演じている。
- 12 八重山のみろく 盆の行事。幸福、五穀豊穡うを願う祭り
- 13 勝連町のコッケイ踊り 青年団員による時代の風刺をとりいれた滑稽な踊り
- 14 読谷村の組み 沖縄独特の古武道の一種
- 15 与那城村平屋敷のエイサー
盆踊り、「エイサー！」「エイサー！」と賑やかにはやしことばをかけながら踊る。

16 那覇祭り一大綱引一息災、家族の健康を祈願する。年占のひとつ。

17 那覇祭り 沖縄相撲（角力）
最初から四つに組んで足技で闘う。柔道に似ている。

18 石川市の闘牛

19 獅子舞い：八重山、首里汀良町
日本本土の獅子よりもむしろ東南アジア系・中国系の獅子に似ている。

20 カチャーシー踊り（即興踊り）：祭り終わりの踊り
終わった！ヤッパ！という人々の喜びを表現する踊り

21 カチャーシー踊り：結婚披露終了の踊り 式は厳粛に始まり、このカチャーシー踊りで賑やかに終わるのが習わし。

最後に、沖縄のマリンスポーツということでウィンドサーフィン、水上スキー、ヨット等を紹介されたが、沖縄の伝統芸能の社会的意義について触れた我々にとって、いかに我々が我々自身の身近な地域社会の生活や伝統文化とは無縁であるかを強調しているようにさえ思われた。現代社会におけるレクリエーションの機能としてももちろんこのような観光レクリエーションは必要であるが、地域社会の日常生活と結びついたもう一方の側面のレクリエーションについてもより一層の努力が必要であることを金城氏は強調されているように思われた。